

# あの森を訪ねて 2

## 横須賀市秋谷 (光雲寺)



三浦半島は、4千万年前に太平洋の深海で生まれ、プレートに乗って房総半島と共に移動しせり上がり、今から50万年前に海上に姿を現わした。今でも年に1mmほど高くなっていることである。

今回の『あの森を訪ねて』は、本県の森林関係では初めての「地滑り等防止法」にもとづく地すべり防止区域を指定し、地滑り復旧工事を行った横須賀市秋谷地区を訪れた。

工事が行われたのは、今から30年ほど前になる。

現在、どのような森林になっているかと、少しばかりハラハラドキドキの探訪である。

本県の地滑り地は、箱根地区とここ三浦半島地区である。

工事や管理を行う主体は、法51条で保安林地は森林部局、農地は農地部局、以外は土木部局と決められている。

秋谷地区は、関根川沿いの海岸からほど近い地域で、ゆるやかな起伏の続く中に、農家が点在し畑地が大部分であるが尾根に近い所に水田もあるという一見のどかな里の風景であった。

地形図をみると等高線の乱れた典型的な地滑り地形をしていることが分かる。

江戸時代からたびたび地滑りがあったようである。

起こりは、昭和49年(1974)7月6日から8日にかけて三浦半島を襲った台風8号と梅雨前線豪雨により滑動が起こ

り、下を通る市道が湾曲したことに始まる。

最下部の関根川の護岸工事等を緊急に実施したが、その後、昭和54年10月半ばの台風20号による降雨によって、11月27日になって上部にある光雲寺の墓地から、長さ150m、幅25m、深さ3mの地滑りが発生し、崩壊土砂量は1万m<sup>3</sup>と推定された。

協議の結果、森林部局で対応することになり、保安林の指定について地元、市と協議を重ね、40数haの地滑り地のうち、緊急性のある光雲寺を中心とした10.3haが昭和55年(1980)1月22日付で地すべり防止区域に指定された。



復旧工事完了時

調査に基づき、昭和57年度に左の沢沿いの崩壊地0.2haに鋼製自在枠6基を骨として、杉の植栽等の復旧工事に着手。

次の年からは、地滑りを止める鋼管杭を延べ393m打ち込むなどの工事を行い、順次、集水ポーリング、暗渠工、水路工が実施された。

昭和57年度から6年間で総額1億9千700万円余、

平成に入ってからでも工事は続

けられ、10年間で3億3千万余の費用が投じられた。

横須賀三浦地域県政総合センターの山本氏に案内を自然環境保全センター研究部の森林の専門家である越地氏に同行をお願いし30年ぶりに訪れた。

30年の歳月が辺りを一変させていた。沢筋の細い崖の道は、立派なトンネルの道となり、その先には湘南国際村ができた。

森林は色濃く、崩壊地の場所は、案内がなければ、それとわからなくなっている。

林内に入ると、高木層には直径30cm、樹高15mほどの楠、そしてあの小さな杉の木が直径25cm、樹高10mになっている。下層には、アオキ、ヒサカキ、ウラジロ等侵入している。

地表を掘ると腐植層が5cmほどできている。



今の姿

光雲寺の墓地から見下ろす復旧地は、周りの森林と区別がつかない。知らない人は、昔からの自然の森と思うかもしれない。当時の人々の労苦と汗は、歴史の中に埋もれていく。

(事務局 瀧澤)